

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和6年度第2回朝霞第七小学校学校運営協議会	
開催日時	令和6年6月8日（土） 午前9時30分から午前11時25分まで	
開催場所	朝霞市立朝霞第七小学校 1階 第2図工室	
出席者及び欠席者の職・氏名	学校運営協議会委員5名 事務局 1名（朝霞第七小学校教頭）	
議題	今年度の取り組みについて	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議次第</li> <li>・学校公開授業一覧</li> <li>・学校評価について</li> </ul>	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法：委員長による確認	
傍聴者の数	傍聴者 0人	
その他の必要事項		

## 審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

### 1. 学校経営方針について【会議資料参照】

- ・校内の様子、授業や教室を見てご意見をいただきたい。
- ・今日で2ヶ月の教育活動を行ってきた。
- ・学校として抱えている課題及び今後の展望について熟議をしたい。

### 2. 意見交換・熟議

（校長）

- ・本校の課題について1つ目は安全確保、2つ目は児童一人一人の状況、多様性が認められる時代、それぞれの課題を軽減できたらいいと思っている。
- 1つ目については、日常の点検の積み重ねを行う。子供が来る前の点検、例えば女の子が訴えてきたことがある。「登校班で班員が話を聞いてくれない。」そういった一つ一つの対応ができるようにしていくことが大切。インターネットを見ると、朝の登校の7時にする等して、子の居場所を作る取り組みなどを行っている。七小の取り組みとしては真逆になっている。今年度、遅刻の欠席等アプリで確認をすることができる。情報共有のツールを活用している。漏れがないようにしている。この後、プールが始まる、また熱中症も注意が必要。安全に注意して実施していく。水質管理やLGBTQへの配慮など、対応をしていっているところです。施設設備必要なところは修繕を行なっていくところ。ようやくブランコの改修が開始した。また、体育館前についても改修を考えている。
- 2つ目の個別の対応について、学校に来られない子、登校しぶりの子が非常に多い。対応する場面は多い。先月、生徒指導部会を開催した。落ち着けない子などがいるため、落ち着ける部屋があるとよい。校内の空き家教室が活用できるといい。現状空き教室が着替え室になっている。いいやり方があると良い。場所を確保し、人員確保できたら良い。例えば給食の時間だけは、教室外などもある。職員室に登校しにきている子も現状いる。

（委員）

- ・先生方がやりにくい状況があるのか？

（校長）

- ・生徒指導充実を兼ねて校務分掌をいじっている。児童一人一人の対応が個別であるため、連携や情報共有も大変である。生徒指導的な側面、教育相談的な側面、特別支援学校的な側面。それぞれで動いている。

（委員）

- ・iPadの様子を確認したい。

（校長）

- ・iPadは今年度も貸与している。配る側からすると状態のいいものを渡したい。タブレットについてはAIドリルが活用できる。一人一人の活用がデータの蓄積になる。AIによって評価ができる。夏休みの宿題等活用予定である。

（委員）

- ・高学年になるとSNSなど、使用の仕方について指導をした方がいいのではないか。

- ・投資や金融などの教育も行うことも必要ではないか。いずれ、自分で始めることになると思うが、さわりを短い時間だけでも抑えてくと安心ではないか。

(委員長)

- ・中学校だと、警察と連携し、非行防止教室などを行なっている。

(校長)

- ・金融教育についてちょうど案内がきている。そういったリスクも踏まえた取組も必要。検討していく。

(委員長)

- ・去年夏ごろ水筒中身入れられた事件があった。七小での対応は？

(校長)

- ・基本、目が届くところにおく。活動場所に置く様になっている。本日、置きっぱなしになっている教室があった。リスクがあると思う。

(委員長)

- ・凶工でノコギリの使用が危うさを感じた。
- ・本日、掲示物が学年で揃っていた。学年間の連携ができていると感じる。

(委員)

- ・連携という意味では、学校応援団という組織がなくなっている。ぜひ、これを盛り上げていけるようにしたい。チラシを撒くなど考えたい。学校応援団の復活を目指したい。

(委員)

- ・学校応援団の取り組みは？

(委員)

- ・学校公開の保護者の誘導など学校によって取り組んでいる。七小は自主性を重んじている。行事の付き添いなど、学年で声掛けをしている。対象保護者に募集していくやり方もあると思う。すこし前、書き初めを張るのが忙しい時、夕方、保護者が手伝いをするのも案としてでた。しかしそれを指揮するも大変な要素もある。

(委員)

- ・前PTA会長さん時代、PTAのチームワークが良かった。除草など、卒業している母なども自然に集まっていた。みんな協力的であった。親の協力を得るのもいいのでは。

(委員)

- ・強制ではないボランティアを盛り上げてきたい。

(校長)

- ・そういったところを探っていきたい。

(校長)

- ・先日花を植えた。以前用務員が主導したことがある。

(委員)

- ・以前は、やっていた。また PTA が手伝った時代もあった。

(委員)

- ・校長環境整備をしながら、誰がどのタイミングで行うか。子供達を巻き込んで行う取り組みにできたら良いのではないかと考えている。昨年後半からそういう構想を考えている。

結論

- ・金融教育を生徒指導や情報教育に絡めながらその観点を指導していく。
- ・安全の確保。刃物の取り扱い、水筒の管理など、改めて状況点検をしていく。
- ・学校応援団等の組織でできることを探っていく。